

2023（令和5）年度 久留米信愛中学校・高等学校 学校自己評価表

2023年度、本校は以下のような目標・方針・計画をもとに、教育活動をおこないます。

※評価はA・B・C・Dの4段階で行います。

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする教育理念の上に立ち、生徒の全人格的陶冶を目指す。 生徒一人ひとりが主体性を確立し、おのおのの可能性を最大限に開発して、絶えず自分を越えて学ぶ姿勢を生涯持ち続けることのできる自己形成力を養う。 人間社会の多様性を理解し、とりわけ弱い立場に置かれた人を大切にす豊かな心を持ち、社会に秩序と平和をもたらす慈愛、信頼、寛容、感謝、協力の精神を育む。	総合評価
年度目標	生徒一人ひとりと向き合い、「手厚く寄り添い、じっくり鍛える指導」を通して、「確かな学力」を育成する。 特に、生徒の「学ぶ意欲」を掻き立てる「動機付け」となる指導の徹底を図る。	A

No. 1

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
宗教教育	○キリスト教カトリック精神に基づく信愛教育の推進	朝終礼での祈りや授業前の黙想を通して、美しい姿勢を保つこと、沈黙のうちに自己と向き合うことを習慣化させる指導をする。	A	A	A
生徒指導	○基本的生活習慣と規範意識の確立 ○主体性と協調性の伸長 ○教育支援活動と相談活動の充実	交通安全指導を色々な機会に行い、安全に対する意識を向上させる。	B	B	A
		時間を守り行動する大切さを学年と連携して指導する。遅刻が多い生徒については、担任と連携し改善できるようサポートする。	B	B	
		生徒会の活動が、年間の行事を見越して計画的に準備実行し、反省事項を次年度に確実に引き継げるよう助言と支援をする。	A	A	
		関係機関およびスクールカウンセラーとの定期的な相談活動を実施し、相談体制を充実させる。	A	A	
教科指導	○自律学習の定着 ○計画的な業務遂行 ○ICT教育の推進	「ステラ手帳」や「家庭学習リサーチ」の結果を活用した効果的指導を促進する。	A	A	A
		新学習指導要領の円滑な実施、新テスト制度への対策を進める。	B	B	
		ICTを活用した授業や校務のための環境整備を進める。	B	A	
進路指導	○キャリア教育と受験指導の徹底 ○進路実現に向けての+αの学習や校外活動参加の促進	時代の流れに柔軟に対応し、一貫したキャリア教育を実施する。	A	A	A
		校内での活動（エナジードや信愛まなびweekなど）による主体的学びの動機付けとなる機会を提供する。	B	A	
国際教育	○グローバル人材育成のための教科横断型プログラムの企画運営 ○国際交流プログラムの企画運営とその関連活動の支援 ○海外難関大学進学を視野に入れた一貫教育の推進 ○海外留学・海外大学進学への支援	教務部（教科学習指導関連）や進路指導部と連携し、グローバル課題やSDGsをテーマに課題探究型教育活動を企画し、実施する。	A	A	A
		英語科と連携し、実践的英語学習の動機付けと実行を支援する。特に、4技能英語検定試験（英検・GTEC等）の受験を奨励し、ICTを活用した対策を支援する。	A	A	
		英語科と連携し、6カ年を通じて実践的英語学習の動機付けと錬成のための研修を企画する。	A	A	
		高校留学・海外進学を推奨・支援するため、奨学金等関連情報提供を積極的に行う。	B	B	
研修	○教科指導力と学級経営力を中心とする総合的指導力向上 ○各種研修会の的確な企画運営	学級経営を教科指導や部活動指導などと連動して行い、あらゆる面において信頼される教師をめざすための研修の機会を設ける。	A	A	A
		全体研修の内容を精選して実施し、「Find! アクティブラーナー」を活用して主体的に参加できる研修にするなどの工夫をする。	B	A	
ICT教育推進	○ICT機器の積極的使用 ○ICT環境の整備	ICT教育を通して、生徒の主体的学びを推進する。	B	A	B
		生徒の円滑な授業や教育活動の環境を整える。	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
家庭との連携	○後援会役員・評議員との事務連絡・調整 保護者との連携強化	後援会役員・評議員との意見交換を行い、信頼される学校づくりに反映させる。	B	A	A
	○信愛父親の会 Shin-ai Dads' Club との連携	父親の集まり「信愛父親の会 Shin-ai Dads' Club」を企画・運営し、父親と学校とのつながりや保護者同士のネットワークを構築する。	A	A	
	○卒業生の保護者との支援体制の構築	歴代後援会役員「百合の会」、卒業生やその保護者の支援を得て、学校の活性化を一層促進する。	B	A	
同窓会との連携	○卒業生情報の収集と有効な活用	卒業生による講話などを通して、先輩の活躍を知ること、生徒の進路意識を高めることに活用してもらえるよう協力する。	B	C	B
中学1年	○基本的な生活習慣・学習習慣育成 ○コミュニケーション基礎力育成 ○自律心・向上心・集団帰属意識（スクールプライド）の涵養	「ステラ手帳」の活用による三点固定と「学習ノート」添削による学習習慣の定着を図る。	B	A	A
		「聞き手に伝わることば」を重視した自己表現活動の機会を設定する。	B	A	
		「探究活動」を通じて進路意識を涵養し、主体的・継続的な学びを推奨する。	B	A	
中学2年	○基本的な生活習慣と家庭学習習慣の確立・深化 ○自己表現力とコミュニケーション能力の強化 ○第Ⅰ期の完成を意識させ、リーダーとしての役割を果たす指導	「ステラ手帳」を活用し、三点固定と家庭学習習慣の定着をはかる。	B	B	B
		探究活動「リリウム」等を通して、自己の在り方を考え、互いに認め合うコミュニケーション能力を高める。	B	A	
		学校生活を通して将来の夢や可能性を見つけ、学習に目的意識を持つことができるようサポートする。	B	A	
中学3年	○生活習慣と学習習慣の確立と深化 ○自己表現力とコミュニケーション能力の強化 ○第Ⅱ期の始まりを意識させ、中学最高学年としての役割を果たす指導	「質より量」と考え、時間をかけて自分なりのやり方を試しながら学習方法を模索させ、定期考査や高校進学テスト、検定等に向けて、十分な準備をして臨むように促す。	B	B	B
		「修了論文・制作」を通して主体的に学び、自分の考えを論理的にまとめ、発表する場を設け、自己表現力を磨かせる。	B	A	
		探究活動リリウムや学校行事を通して、相手の立場が自分とは異なることを理解したうえで協働的活動を促し、様々な役割を務める機会を提供する。	B	B	
高校1年	○高校生活の基盤固め（中学からの脱却） ○学習に対する意識の向上 ○自己再発見	生活習慣を確立させる。ステラ手帳などを活用し、学習時間を中心とした三点固定の確立を図る。	B	B	B
		ステラ手帳を活用して家庭学習の充実、自学の習慣付け、考査の振り返りをし、自らの学習スタイルを見つけさせる。	B	B	
		個人面談を通じ、自分の適性について考えさせ、しっかりとした文理選択を行わせる。	A	A	
高校2年	○学習を中心とした生活習慣の定着 ○進路の目標に向かっての進路学習の深化 ○人格形成のための経験値の伸長	「理想の自分－現在の自分＝ギャップ」から目標を自分自身で考えて決定させ、それらを把握したうえで外発的動機付けを継続して行う。	B	A	A
		進路選択の際の視野を広げさせる仕掛けを工夫する。（校外学習の案内、講演会の実施、イベントへの参加案内など）	A	A	
		コロナ禍で失われた機会を取り戻すべく、悔いのないよう何事にも挑戦する志を持たせ、全力で後押しする。	A	A	
高校3年	○受験生としての自覚と覚悟を持って、真摯に、強い心で進路実現を目指す生徒の育成 ○隣人愛の精神を有し、他者のために自分を生かす生徒の育成	授業を中心（軸）に、リズムを整えて学校生活を送るよう指導し、一人ひとりの進路実現に至る過程を、教師団があらゆる面から全力でサポートする。	B	A	A
		一人ひとりに与えられている恵みに気づかせ、「自己を他者に生かす生き方」をとともに探り、行動・実践を促す。	B	A	